

活動事例

技術相談
事業・産地 PR

いばらき国体への技術支援事例

- ① 記念品の使用型製作支援
- ② 表彰状額縁及び賞状ケースデザイン支援

支援先

- ① 笠間焼協同組合, 小林哲生氏 (陶芸家)
- ② 千洲額縁株式会社

【内容】

茨城県では令和元年度に第74回国民体育大会（「いきいき茨城ゆめ国体2019」）を開催しました。当センターでは、「記念品製作」と「表彰状額縁及び賞状ケース製作」について技術支援することで国体開催に協力しました。

① 記念品の使用型製作支援

国体の記念品として、笠間焼協同組合より石膏型による成形技術について相談を受けました。

生産ロット数は300個で、表面に記念品の文字と国体をイメージしたレリーフをあしらう限定製品であるため、コストを出来るだけ抑える方法として、原型と同じ型を容易に作れる簡易な使用型（原型複製型）の製作（簡易工程）を提案しました（図1）。

使用型の製作にあたっては笠間陶芸大学校保有の卓上型プラスチック成形機による成形が可能であったため、製作元である陶芸家の小林哲生氏に元型製作の技術指導も行いました。その結果製作された製品は、国体の記念品として採用されました（図2）。

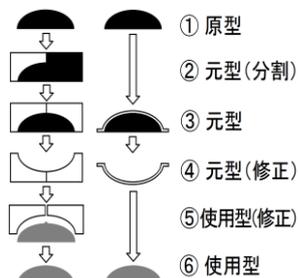


図1 通常工程（左）と簡易工程（右）



図2 実用化した記念品

② 表彰状額縁及び賞状ケースデザイン支援

国体運営の事務局である競技式典課より、表彰状額縁に使用する結城紬の提供と賞状収納ケースのデザイン案作成について依頼を受けました。

「表彰状額縁」については、当センター人材育成事業にて研修生が製織した結城紬生地が男女総合成績1位～8位と女子総合成績1位～8位の都道府県に授与される表彰状額縁の内装に使用されました（図3）。「賞状収納ケースのデザイン案作成」については、繊維高分子研究所の結城紬緋設計図案作成システムにより図案化した県花バラの亀甲柄のデザインを、競技式典課及びケース製造元に提供し、賞状収納ケースのデザインとして採用されました（図4）。亀甲柄は結城紬の特徴で、亀の甲羅から長寿吉兆を表す縁起のよい文様とされ、選手の皆さんが長く選手生活を続けられ、さらに飛躍し、未来に向けて大きく羽ばたいていけるように願いをこめております。



図3 総合成績表彰状額



図4 賞状用収納ケース

基礎となった事業

令和元年度 試験研究指導費（技術相談），人材育成事業

現在の担当グループ

陶芸人材 G	グループ長	尾形 尚子	TEL:0296-72-0316
	主任研究員	常世田 茂	
繊維・紬 G	グループ長	篠塚 雅子	TEL:0296-33-4154
	主任研究員	中野 睦子	